



世界トップの節水都市ふくおか！ 私たちの水、どこから届く？

6月1日は、「節水の日(福岡市制定)」です。福岡市は1978年と1994年の2度にわたって大渇水に見舞われており、6月1日が1978年の大渇水で厳しい給水制限のはじまりの日になったことから制定されました。2度の大渇水を乗り越え、世界トップクラスの節水都市となった福岡市の水にまつわる歴史や取り組みについてご紹介します。

※本記事は、福岡地区水道企業団および福岡市水道局提供の資料や写真をもとに作成しています。

水源に恵まれない福岡の「水の歴史」

福岡での水道水供給のはじまり

日本での水道水供給は、1887年に横浜で開業したのが始まりと言われていす。当時は、港湾都市を中心に海外から持ち込まれる疫病の蔓延を防ぐ目的で整備され、生活用水には井戸水が使われていました。九州では、1891年に長崎市で先駆けて整備され、**福岡市では、1923年に曲淵ダム(早良区)と平尾浄水場(中央区・現福岡市植物園)が完成したことを機に、水道供給が始まりました。**



▲平尾浄水場跡
(提供:福岡市水道局)

—— マメ知識 ——

地名の由来
「平尾浄水町」や「浄水通り」といった地名は、かつて平尾浄水場があった名残といわれています。

福岡都市圏を襲った2度の大渇水

現在、福岡市とその近郊地域の福岡都市圏※1には約260万人※2の人々が暮らしており、全国的にも人口増加が注目されている地域です。

しかしながら、**福岡市には政令指定都市で唯一、域内に一級河川がなく、福岡都市圏全体でも水源には恵まれていません。**そのため、福岡都市圏ではかつて度々渇水に見舞われてきました。中でも、1978年と1994年には、異常少雨や記録的猛暑によって、市民生活に甚大な影響を与えた**大渇水が発生**しました。

1978年の大渇水では、福岡市や春日市、太宰府市などで給水制限が実施され、最長で約287日間にも及びました。人工降雨実験なども実施されましたが、1日に5時間しか水が出ない日が続くこともあり、病院ではバケツに水を貯めて手術用の水を確保するなど、医療現場や産業界にまで影響を与えました。

1978年の大渇水を経験した翌年、福岡市は「福岡市節水型水利用等に関する措置要綱」を制定し、現在まで続く「**節水型都市づくり**」の推進が始まりました。

※1：糸島市や筑紫野市、宗像市や篠栗町など、福岡市近郊を含めた10市7町17自治体を指す
※2：福岡地区水道企業団「Water」参照



▲1978年の大渇水で干上がった南畑ダム



▲給水車から水を汲む市民(1978年)

水の安定供給に向けた「福岡地区水道企業団」の設立 給水量の約3分の1を筑後川から供給

福岡都市圏の水需要は、高度経済成長期の1960年代から、人口増加や生活レベルの向上、産業・文化の発展等により増加傾向にありました。水源に恵まれない福岡都市圏の水を確保するため、国は1966年に筑後川から福岡都市圏への水の供給を決定しました。**現在、福岡都市圏で供給されている水道水のうち、約3分の1は筑後川から供給される恵みを受け取っています。**

筑後川から供給される水を各自治体に分配し、効率的な運営管理を行うため、1973年6月、福岡都市圏の4市18町(現：6市7町1企業団1事務組合)で**福岡地区水道企業団**が設立されました。



▲筑後川から牛頸浄水場に運ばれるまで(※赤ライン部分)

—— マメ知識 ——

**筑後川の水は
どうやって運ばれる？**

筑後川の水は、筑後大堰(久留米市)の上流側の取水口からポンプで汲み上げられ、全長約25kmの福岡導水というパイプを通して、牛頸浄水場(大野城市)まで届きます。牛頸浄水場で浄水処理されたのち、水道水として福岡都市圏に送水されます。



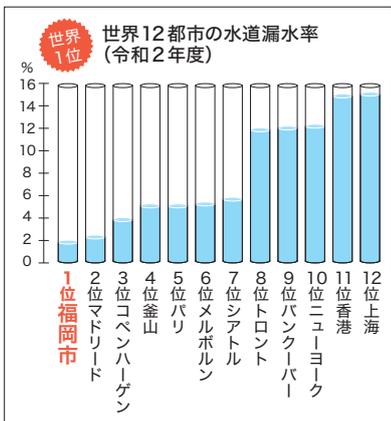
◀福岡導水

水に関する福岡市のNo.1

世界1位の漏水率の低さ

漏水率とは、水が浄水場から家庭等に届くまでに水道管から漏れる水量の割合のことです。

福岡市は、世界12都市中で漏水率が最も低い都市です。

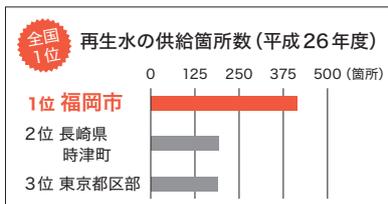
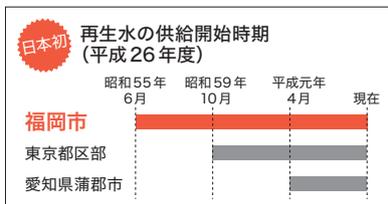


データ出展：福岡市「Fukuoka Facts」のHP

日本初の再生水利用

再生水とは、下水として流された水を様々な用途で再利用できるように、よみがえらせた水のことです。

福岡市では、主にトイレの洗浄水や樹木への散水などに活用されています。



データ出展：福岡市「Fukuoka Facts」のHP

日本最大規模の海水淡水化施設

天候に左右されることなく安定的な水の供給を行うため、2005年に福岡地区水道企業団が日本最大規模の海水淡水化施設「まみずピア」を完成させました。

まみずピアでは、1日に最大5万㎡(約25万人分)の真水をつくることができ、「飲む海水」として福岡市役所1階で販売されています。



▲まみずピア(東区奈多)



▲飲む海水 (提供:福岡市水道局)

マメ知識

天神ビッグバンが水不足危機を救う?!
天神ビッグバンなどの再開発でビルが建て替わることで、高性能の水循環機能が備わり、街全体でより高い節水効果が期待されます。

福岡の水のこと、もっと知りたい!

福岡地区水道企業団50周年を迎えて

福岡地区水道企業団は、今年で50周年を迎えました。当企業団では、これまで、筑後川から水を供給するための福岡導水設置をはじめ、全国初となる渇水対策ダム(五ヶ山ダム)の水源開発など、長年にわたり安定的な供給への取り組みを行ってきました。2021年に水源開発はすべて完了しましたが、水源に恵まれない福岡では、多くの方々に水事情への理解を深めてもらうことが重要であると考えています。今年度は設立50周年を記念して、水について知っていただくための様々な企画を実施します。ぜひ、ご参加ください。



▲福岡地区水道企業団 総務部長 今村 寛氏



一人ひとりのメッセージが苗木に変わる?!

「ありがとうの森プロジェクト」

メッセージ募集中

参加はこちら



ありがとうの森プロジェクトは、筑後川流域への感謝の気持ちを「メッセージ」として集め、そのメッセージを苗木に添えて水源地域に贈呈するものです。

豊かな水源を守るためには、水を貯えたり、浄化したりする役割(かん養機能)をもつ森林を育むことが重要であることから、福岡地区水道企業団50周年記念事業として企画されました。苗木は、10月14日(土)の記念式典で水源地に贈られます。

募集期間 9月30日(土)



近年、日本各地で豪雨災害が頻発しており、事業継続計画(BCP)等において風水害への備えに対する意識が高まっています。今回、福岡市の「水の歴史」を振り返ることで、事業継続の観点から“渇水”への備えについても考えていただく機会になればと思います。

「考えてみよう!ふくおかの「水」のこと」講座(予定)

詳細はこちら



【大人の社会科見学】

海水を淡水化する施設の1日職員体験?!

日時 6月24日(土) 13:30~16:00

場所 海の中道 奈多海水淡水化センター

「福岡の発展を支える水×ドボク(仮)」(施設見学)

日時 7月22日(土) 時間未定

場所 筑後大堰、江川・寺内ダム

「ふくおかの「水」のこれから」を考える(仮)」

日時 9月30日(土) 時間未定

場所 ボタニカルライフスクエア(福岡市植物園)

記事に関するお問い合わせ / 企画広報グループ TEL: 092-441-1112

水道企業団50周年記念事業に関するお問い合わせ / 福岡地区水道企業団 TEL: 092-552-1731